

はじめに

この本で紹介するのは、本人に「学ばせる」「気づかせる」教え方です。

一般的に「教える」というと、教える側が答えや正しいやり方をもっていて、それを伝えるといったイメージがあります。もちろん、そういった側面もあります。特に子供に対する教育ではそうですね。

ただこの本は、ある程度「大人」を対象にした教育、特に20代〜30代の若者を中心にした教育に焦点をあてています。大人を相手に教える場合、子供を相手にするときとは違った考え方、やり方が求められます。

ところが、私たちは「大人をどうやって教えたらいいか？」について体系的に学んだことがほとんどありません。どうしても今まで受けてきた学校教育や自分の上司のやり方から今の自分の教え方がある、という方も多いのではないのでしょうか？

この本では、大人を相手に「教え上手になる」ために必要な考え方ややり方を紹介して

いきます。

まず、本書では「教える」ことを、「上手に学べるよう手助けすること」と定義しています。教える側は、相手が「上手に学ぶ力」を身につけられるよう支援するのです。

では、なぜ、「上手に学ぶ力」が必要なのでしょう？

それは、その方が相手にとって役に立つからです。一昔前のように、教える側が答えや正しいやり方を握っていて、それを伝えるという時代ではなくなってきました。教える側も、何が正解で何が間違っているのかわからなくなってきました。正直「これでいいのだろうか？」「自分も、こうだ！」と言い切れない」という不安を抱えたまま人に教えている方も多いのではないのでしょうか？世の中がこれからどう変わっていくかも予測が難しい状況です。環境変化が起こる中で、変化に対応し変化から学ぶ力がさらに求められます。

例えば、こんな変化が起こったとき・・・

- ・部下や後輩をもったり、プロジェクトを任せられたりと、役割が急に変わったとき
- ・突然の異動や出向により全く新しい環境で仕事をしなければならなくなったとき
- ・合併や業務提携で異文化をもつ人達と一緒に仕事をしなければならなくなったとき
- ・会社を辞めて次の会社に移るとき、あるいは自分で事業を起すとき
- ・大きな失敗や挫折に直面しているとき
- ・子供が生まれ、家族が増えたとき
- ・地域活動など今まで付き合ったことのない種類の人達と付き合うようになったとき

このようなときに求められるのが「学ぶ力」です。では、「学ぶ力」とは何なのでしょうか？

それは、自分の経験、周囲の人々、先人の知恵から、何かを得て自分の糧としていく力です。私たち教える側の目標は、変化に対応し学んでいける人材の育成です。自ら学び行動していく力がないと、困るのは学習者本人です。だからこそ、教える側に求められるのは、本人が上手に学んでいく力を身につけさせることなのです。そんな「学び上手」を育てる「教え上手」になるための方法論を紹介していきます。

この本は、2006年に出版された『教え上手になる！』に加筆修正したものです。

『教え上手になる！』は、御蔭様で皆様からご支持を頂き増刷を重ねてまいりました。ただ、初版当時に比べ世の中は大きく変化してきているため、このたび新しい形で出版させて頂くことになりました。

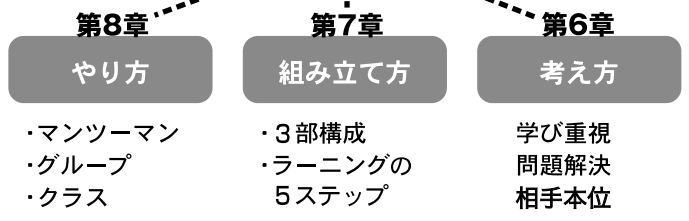
ここ最近の出来事を見るだけでも、私たちのいる世界が大きく変わってきていることを皆さん感じるのはないでしょうか？ アメリカという20世紀を象徴する国家の最近の状況をみても「金融・自動車業界の凋落」「黒人大統領の誕生」「一極体制から他国との協調へ」と今まででは考えられないような変化が起こっています。翻って日本では、私たちが働く環境も大きな変化にさらされています。ここ数年続いてきた新卒者の「売り手市場」の終焉、そして再度の「就職氷河期」の懸念。「雇い止め」「派遣切り」といった言葉に象徴される契約・派遣社員の苦境。ダイバーシティー（多様性）促進のための外国人雇用。といったように、私達が働く環境も大きく変わってきています。

そんな変化の時代に、変化に前向きに対応し、変化そのものから学んでいける「学び上手」な人材は益々求められるでしょう。「学び上手」な人材を育てる「教え上手」を目指すあなたにとって、この本が少しでもお役に立つことを願っています。



教え上手

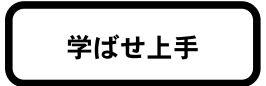
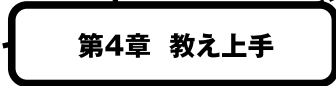
教え上手のノウハウ



この本で一番伝えたいこと



になる！



学び上手の育成

- 「学び上手」のキーワード
- ・マインド スキル エナジー
 - ・学びのPDCA
 - ・Think & Act (行動)



- ・おとなの学習
- ・学習スタイル
- ・対人スタイル

「教え上手は学ばせ上手」